

第1回栗東市地方創生懇談会議事要約

平成27年6月29日（月）午前10時00分～
栗東市役所4階 第1委員会室

1. 開会(市長あいさつ)

本日、第1回栗東市地方創生懇談会の開催をお願いしたところ、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。わが国では、平成20年をピークに人口は減少局面となり、滋賀県も昨年10月から人口減少局面に入ったとされています。

さらに、昨年5月の日本創成会議で消滅自治体リストが公表されて以来、東京一極集中の是正、若い世代の就労、結婚、子育ての希望の実現、地域の特性に即した地域課題の解決など、地方創生の取り組みが大きくクローズアップされています。栗東市では人口の増加が続いていますが、一方転出数が多くなってきています。今後、出生数の減少と同時に、高齢化、後期高齢者の増加が見込まれることから、これらを見極め、しっかり対応することが重要な課題と考えています。

国は昨年12月に、まち・ひと・しごと創生長期ビジョン、同総合戦略を策定し、これに合わせ都道府県、市町村においても地方版のビジョンと戦略の策定が求められています。

昨年度策定の（総合計画）後期基本計画を基本とし、人口ビジョン、総合戦略を策定し、具体的な内容を検討していくこととしており、栗東市を発展させることを目的として、この会議をお願いしています。各委員においては忌憚のないご意見をお願いいたします。

2. 委員の委嘱および委員照会について

（省略）

欠席：田中委員

3. 会長・会長代理の選出について

（省略）

会長：新川委員、会長代理：清水委員

会長

当栗東市はこれまで比較的幸せな状態ではありますが、同時に世界、日本の動きの中で考えていかなければなりません。今後の持続可能な地域、皆が幸せに感じる栗東の暮らしを用意しておくことが重要であると思います。早い段階で準備に取り組めるのは、市民にとってとてもよい機会であると考えます。

今回の総合戦略をしっかりと考えることにより、将来にわたる土台づくりができることを期待しています。先般、栗東市の総合計画の策定にも携わり、具体的なまちづくりをどうするか多くの委員と一緒に考えてきました。まちそのものが健康なまちであ

り続け、まちの賑わいや、市民が生き生きとした姿がどれだけ実現できるかというのが大きな課題であると思いつつ議論をしてきました。

単に人口が減らないとか、高齢化社会に対応しているだけではなく、市民一人ひとり生きがいをもって元気に暮らしていけることを、この総合戦略でも考えていきたいと思えます。

4. 協議事項

(1) 地方創生懇談会の傍聴に係る取扱いについて…資料1

《資料説明（事務局）》

(省略)

《質疑応答》

委員

傍聴できる定員は何人なのか。

事務局

席は会場に入る程度で5名から6名である。少々人数が多くなった時は椅子の配置を考えており、通常は問題ないと考えている。

会長

できるだけ入ってもらう方向で考え、PRして多くの人が傍聴されるようお願いしたい。

委員

傍聴人の呼びかけは市のホームページだけなのか。

事務局

マスコミへの情報提供もしていくが、それが紙面に掲載されるかは確約できない。できるだけ様々な手段がとれる方法を行い、広く情報提供していきたい。

委員

広報紙は重要だと思う。ホームページは見ている人と見ていない人がいる。市の公式フェイスブックも活用して、できるだけ多くの人に知らせてもらいたい。マスコミにも案内してもらおうとすると、かなりの情報量と熱意がないと報道してもらえないので、市からのアプローチもお願いしたい。

会長

少し前倒しで情報提供をお願いしたい。

※原案通り了承。

(2) まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」について…資料2
《資料説明（事務局）》

(省略)

《質疑応答》

※原案通り了承。

(3) (仮称) 栗東市人口ビジョン・総合戦略について…資料3、4
《資料説明（事務局）》

(省略)

《質疑応答》

委員

今日は、こういう部会をつくるというのが目的なのか。また、部会を踏まえて具体的な行動を起こす必要があるが、それはこれから話し合うということか。

事務局

今回は、策定していく体制をこのようにしていくという説明している。部会については、今後動いていくものであり、細かいことを議論していく。

会長

本日は体制を作っていく入口の段階で、今後、中身を議論していくことになる。
人口ビジョン、総合戦略の位置づけを理解いただき、この枠組みで策定に入っていくが、その中で意見を言ってもらって体制をつくっていきたい。

※原案通り了承。

(4) 栗東市の人口の現状について…資料5
《資料説明（事務局）》

(省略)

《質疑応答》

委員

5 ページにある栗東市の平成22年の年齢区分別人口について、構成割合の数字を全て足しても100%にならないところがある。

事務局

小数点以下の四捨五入による端数処理の関係であり調整する。

委員

15ページに4つの推計シミュレーションがあるが、この中で、どのシミュレーションを採用するかを議論していくのか。

事務局

仮定条件については、部会で協議を行い、素案を懇談会に提案して意見をいただきたいと考えている。

委員

例えば、人口の変化はここにあるように、40歳以降の中年層で市外流出があり、高齢者も草津へ動いている。栗東市は、国道1号、8号、栗東インターチェンジができて、当時の町長も30年先を見てほしいと言われていた。それを見据えて市を発展させてきたと思う。

しかし、分譲住宅は増えても、道路の整備、都市計画が進んでいません。業者が入ってくるのはいいが、計画性もなく、ここの住宅をよりよくするビジョンが見えてこない。このような計画をしていかないと人口増加が見えてこない。次回に、部会において検討した案を示してほしい。

事務局

意見を踏まえて部会の中で検討していきたい。

委員

人口ビジョンは栗東市全体に係るビジョンだと思うが、栗東市全体の中でも金勝学区の人口は減っている。金勝学区の現状を見て、どのようにしていくのか考えてもらいたい。

事務局

過去の人口推移も見ながら、次回、各学区別の人口推計を示し、地区の人口について学区ごとの対策を打てるかどうか、考えていきたい。

委員

5ページの人口の推移状況は平成22年までとなっているが、草津市の人口は以前の伸び率に比べると、減少してきているという話を聞いている。もう少し直近までの数値を踏まえて示せないのか。

次に、8ページの草津市と栗東市間の転出入人口は、平成25年から平成26年は転出が多くなっている。また、6ページの人口の社会増減は、平成21年と平成22年が減少しており、平成26年も減少している。その理由は何かあるのか。

事務局

国勢調査は5年ごとに実施されていることから、5年前の平成22年の数値となっている。直近については、住民台帳に基づいて推計しているが、これらの分析は近年の動きまで含めて考えたい。

また、草津市でもこの5年で伸び率が減少していることは聞いている。過去5年間の増加率をそのまま使うことはできないため、草津市も何らかの補正をすると聞いている。

栗東市も過去の増加率を使える部分と、直近の5年間の動きをさらに分析したうえで、どのように人口ビジョンに入れ込んでいくか、もう少し内容を検討したい。

6ページの減少要因については、平成20年に新幹線新駅が中止になったということと、平成21年と平成22年に近隣市での開発が急激に行われていた。さらに、財政再構築プログラム等が本市で実施された時期であったこと、平成23年には草津市内でイオンモールが開店したことなどもあったため、便利の良いところへ転出したのではないかと推測できる。

会長

市民の転出入時に、窓口課でその理由をアンケートで聞く自治体もあるので、参考にしてもらいたい。

※原案通り了承。

(5) 今後のスケジュールについて…資料6、参考資料

《資料説明（事務局）》

(省略)

《質疑応答》

委員

市民アンケート調査は、他課でも実施されていたと思うが、2,000通に対しどのくらい返信があると見込んでいるのか。

委員

過去の結果を踏まえると、概ね、4割ぐらいを予想している。

会長

全国的にみると栗東市は回収率が高い方だと思う。普通は、30%に届くかどうかといったところである。

※原案通り了承。

(6) その他

《説明（事務局）》

本日出し切れなかった意見については、7月7日を目処に別添ご意見シートにより提出をお願いしたい。

第2回目、次回の懇談会は8月25日（火）の午後1時30分から開催をさせてい

ただくので出席をお願いしたい。

5. 閉会(副市長あいさつ)

本日は、お忙しい中ありがとうございました。ご意見、ご提案を頂きました内容は検討し、今後反映させていきたいと思えます。基本的に、人口ビジョン、戦略につきましては限られた人口を取り合うのではなく、栗東市の独自の魅力なり、あるいは誇りというものをPRしながら、しかも出生率を上げていくというのが基本であると思えます。

この懇談会の中で、皆様のそれぞれの立場で色々なご意見を賜る中でまとめていきたいと考えていますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。本日は、誠にありがとうございました。

以上